

青森県経済統計報告

令和4年4月28日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（令和4年4月1日現在）..... 1

県人口 1,209,012人(対前月5,852人減少)

自然動態 1,252 人減少（出生者数 525 人、死亡者数 1,777 人）

社会動態 4,600 人減少 (転入者数 3,346 人、 転出者数 7,946 人)

2 本県の経済動向（令和4年2月・3月の経済指標を中心として）

(1) 經濟概況

本県経済は、新型コロナウイルス感染症の影響から厳しい状況にあり、持ち直しの動きも一服している。なお、直近の景況感（青森県景気ウォッチャー調査・令和4年4月期）をみると、前期から低下し、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに下回った。

(2) 主要経済指標の動向

- | | | | | |
|-------|------|---|---|---|
| (2-1) | 生産動向 | <p>・令和4年2月の<u>青森県鉱工業生産指数</u>(平成27年=100)は、季節調整済指数が98.6で、前月比3.7%の低下となり、2カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は89.1で、前年同月比4.4%の低下となり、3カ月連続で前年同月を下回った。</p> | … | 2 |
| (2-2) | 雇用労働 | <p>・令和4年2月の<u>定期給与</u>は222,434円で前年同月比1.9%増となった。</p> <p><u>総実労働時間</u>は138.7時間で前年同月比1.9%減、<u>所定外労働時間</u>は9.2時間で前年同月比5.4%増となった。</p> <p>・令和4年3月の<u>有効求人倍率</u>(季節調整値)は1.14倍で、前月を0.01ポイント上回り、12カ月連続で1倍を上回った。</p> | … | 3 |
| (2-3) | 物 価 | <p>令和4年3月の青森市消費者物価指数(令和2年=100)は、総合指数が102.2となり、前月比0.5%の上昇、前年同月比1.7%の上昇となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は99.4となり、前月比0.2%の上昇、前年同月比1.1%の下落となった。</p> | … | 5 |
| (2-4) | 個人消費 | <p>・令和4年2月の<u>百貨店・スーパー販売額</u>は、134億円で全店舗ベースが前年同月比2.8%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比3.7%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。※更新なし</p> <p>・令和4年3月の軽乗用車を含めた<u>乗用車新車登録・車出台数</u>は4,205台で、前年同月比17.6%減となり、3カ月連続で前年同月を下回った。</p> <p>・令和4年3月の主な観光施設の<u>観光入込客数</u>は、29万6千人で前年同月比24.5%減となり、2カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設の<u>宿泊者数</u>は、12万2千人で前年同月比0.7%減となり、2カ月連続で前年同月を下回った。</p> | … | 6 |
| (2-5) | 建 設 | <p>・令和4年2月の<u>新設住宅着工戸数</u>は212戸で、前年同月比24.1%減となり、2カ月連続で前年同月を下回った。※更新なし</p> <p>・令和4年3月の<u>公共工事請負金額</u>は102億8,500万円で前年同月比37.4%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。</p> | … | 8 |
| (2-6) | 企業倒産 | <p>令和4年3月の<u>企業倒産</u>は、件数は7件で前年同月比40.0%増となった。負債総額は3億3,800万円で前年同月比51.8%減となった。</p> | … | 8 |

(3) 景気動向指数 C I (令和 4 年 2 月分) 9

先行指数 112.5 (前月を8.3ポイント下回り、3カ月連続で下降した)

一致指数 74.6 (前月を5.8ポイント下回り、2カ月ぶりに下降した)

澤行指数 100.8 (前月を4.3ポイント上回り、2カ月ぶりに上昇した)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（令和4年4月期） 10

3カ月前と比べた景気の現状判断DI…38.5(前期比13.5ポイント低下、2期ぶりに50を下回る)

3 カ月後の景気の先行き判断D I … 50.3 (現状判断D I と比べ 11.8 ポイント上昇)

1 青森県の推計人口（令和4年4月1日現在）

【概 況】

令和4年4月1日現在の本県推計人口は、1, 209, 012人で、前月に比べ5, 852人の減少となった。

○自然動態

出生者数が525人、死亡者数が1, 777人で、1, 252人の減少となった。

○社会動態

転入者数が3, 346人、転出者数が7, 946人で、4, 600人の減少となった。

総人口の推移

（単位：人）

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数	出生者数	死亡者数	社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
昭 45.10. 1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10. 1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10. 1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10. 1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10. 1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10. 1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10. 1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10. 1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10. 1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10. 1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
令2. 10. 1	1,237,984	583,402	654,582	-	-70,281	-	-	-	-	-	-
令3. 4. 1	1,226,704	577,732	648,972	-0.454%	-5,599	-1,080	584	1,664	-4,519	3,583	8,102
令3. 5. 1	1,226,052	577,551	648,501	-0.053%	-652	-928	604	1,532	276	2,861	2,585
令3. 6. 1	1,224,781	576,924	647,857	-0.104%	-1,271	-1,010	540	1,550	-261	884	1,145
令3. 7. 1	1,223,717	576,436	647,281	-0.087%	-1,064	-900	546	1,446	-164	1,015	1,179
令3. 8. 1	1,222,949	576,212	646,737	-0.063%	-768	-910	554	1,464	142	1,460	1,318
令3. 9. 1	1,222,051	575,775	646,276	-0.073%	-898	-963	621	1,584	65	1,322	1,257
令3. 10. 1	1,221,305	575,531	645,774	-0.061%	-746	-958	564	1,522	212	1,423	1,211
令3. 11. 1	1,220,315	575,169	645,146	-0.081%	-990	-958	550	1,508	-32	1,167	1,199
令3. 12. 1	1,219,219	574,658	644,561	-0.090%	-1,096	-1,066	515	1,581	-30	1,038	1,068
令4. 1. 1	1,217,988	574,116	643,872	-0.101%	-1,231	-1,163	473	1,636	-68	996	1,064
令4. 2. 1	1,216,386	573,399	642,987	-0.132%	-1,602	-1,367	530	1,897	-235	898	1,133
令4. 3. 1	1,214,864	572,686	642,178	-0.125%	-1,522	-1,148	473	1,621	-374	839	1,213
令4. 4. 1	1,209,012	569,765	639,247	-0.482%	-5,852	-1,252	525	1,777	-4,600	3,346	7,946

3 月中の人口動態の推移

（単位：人）

年月		H24.3	25.3	26.3	27.3	28.3	29.3	30.3	31.3	R2.3	3.3	4.3
自然 動態	出生者数	742	704	745	737	743	665	617	597	561	584	525
	死亡者数	1,498	1,501	1,475	1,461	1,483	1,565	1,620	1,462	1,537	1,664	1,777
	自然増減数	-756	-797	-730	-724	-740	-900	-1,003	-865	-976	-1,080	-1,252
社会 動態	県外からの 転入者数	3,822	3,440	3,923	3,806	3,828	3,993	3,686	3,410	3,634	3,583	3,346
	県外への 転出者数	8,691	9,110	9,050	9,159	9,102	9,339	9,367	9,183	8,722	8,102	7,946
	社会増減数	-4,869	-5,670	-5,127	-5,353	-5,274	-5,346	-5,681	-5,773	-5,088	-4,519	-4,600
増減数計		-5,625	-6,467	-5,857	-6,077	-6,014	-6,246	-6,684	-6,638	-6,064	-5,599	-5,852

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年は国勢調査人口（確定値）。

※2 令和2年11月1日以降の人口は、令和2年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 令和3年11月30日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

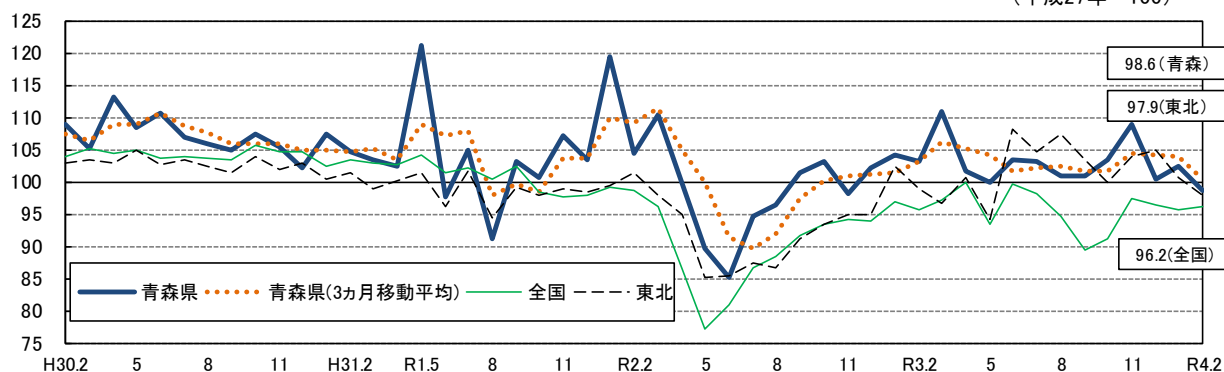
(2-1) 生産動向

令和4年2月の青森県鉱工業生産指数(平成27年=100)は、季節調整済指数が98.6で、前月比3.7%の低下となり、2ヵ月ぶりで前月を下回った。また、原指数は89.1で、前年同月比4.4%の低下となり、3ヵ月連続で前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、化学工業、生産用機械工業、輸送機械工業等が上昇に寄与した一方、金属製品工業、食料品工業、電気機械工業等が低下し、鉱工業全体では3.7%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成27年=100)



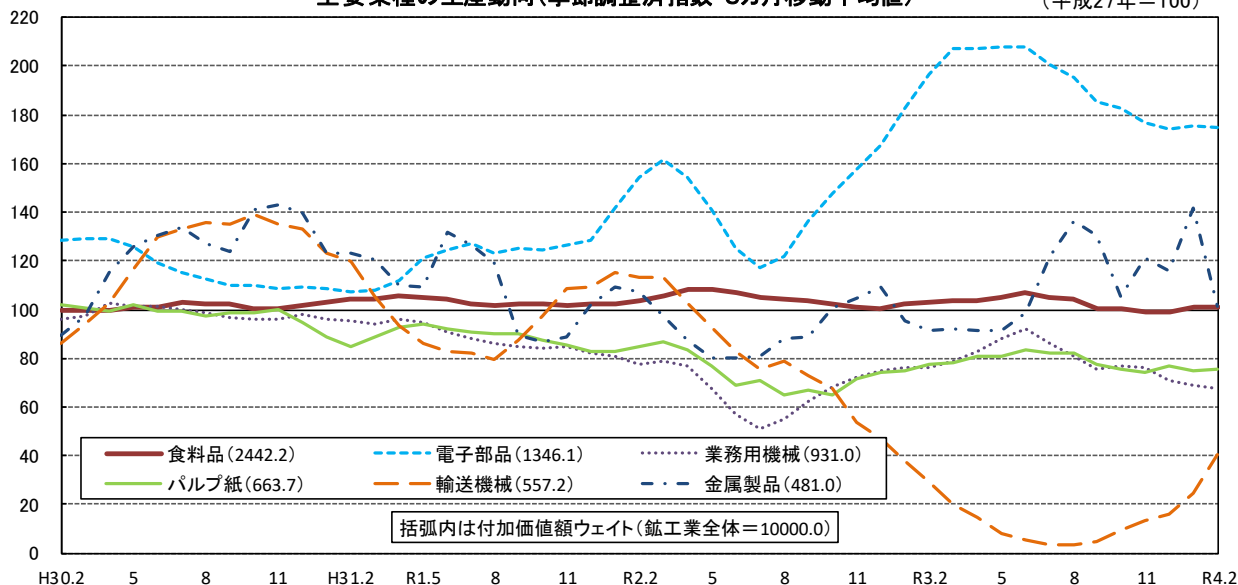
◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -3.7%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
化学工業	50.3	273.8	金属製品工業	-51.4	-470.9
生産用機械工業	132.7	253.0	食料品工業	-4.7	-164.3
輸送機械工業	39.3	131.6	電気機械工業	-18.9	-158.8
パルプ・紙・紙加工品工業	12.8	80.2	家具工業	-20.3	-27.8
繊維工業	4.1	13.7	窯業・土石製品工業	-6.1	-25.5

※寄与率とは、総合指数の上昇(低下)に対する、業種ごとの影響度を構成比で示したものであり、ポイント差とウエイトとの総合的な大きさで決まる。

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3ヵ月移動平均値)

(平成27年=100)



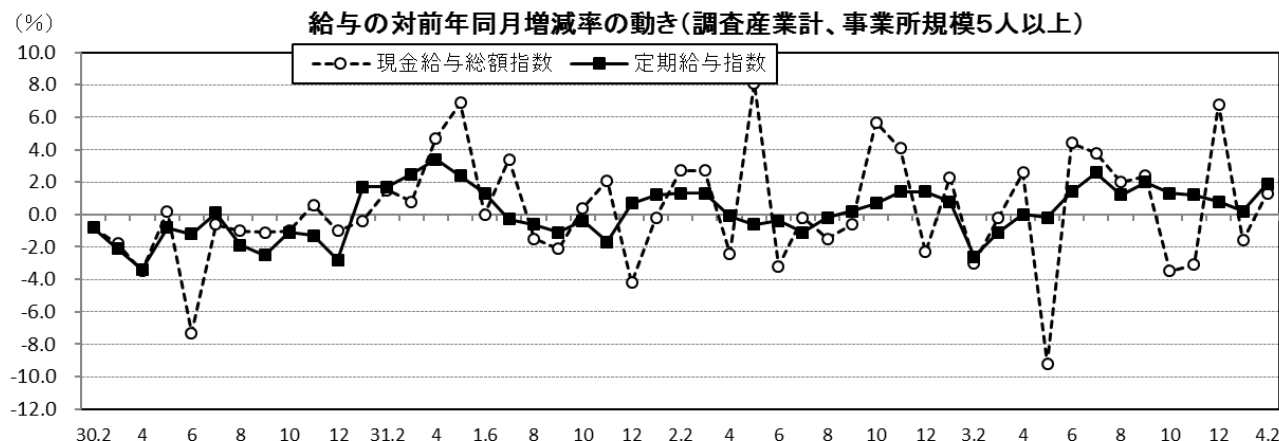
資料: 県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和4年2月の定期給与は222,434円で、定期給与指数（令和2年＝100）では100.0となり、前年同月比1.9%増と9カ月連続の増（現金給与総額224,553円、現金給与総額指数85.9、前年同月比1.3%増）となった。

総実労働時間は138.7時間で、総実労働時間指数は94.2となり、前年同月比1.9%減と2カ月連続の減となった。このうち、所定外労働時間は9.2時間で、所定外労働時間指数は97.9となり、前年同月比5.4%増と7カ月ぶりの増となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

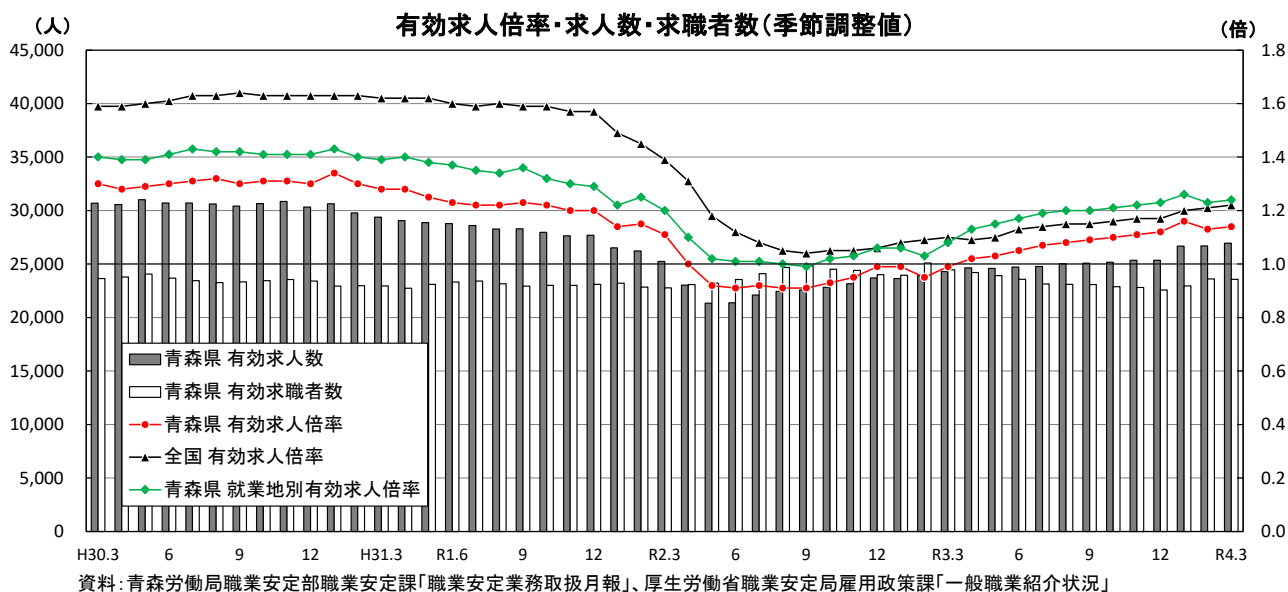
給与及び労働時間の全国との比較(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実 数		指数(R2=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	224,553 円	269,142 円	85.9	84.5	1.3 %	1.2 %
定期給与	222,434 円	264,423 円	100.0	100.8	1.9 %	1.2 %
特別給与	2,119 円	4,719 円	—	—	—	4.7 %
総実労働時間	138.7 時間	130.7 時間	94.2	96.7	-1.9 %	-0.1 %
所定内労働時間	129.5 時間	120.9 時間	93.8	96.0	-2.4 %	-0.5 %
所定外労働時間	9.2 時間	9.8 時間	97.9	106.5	5.4 %	5.1 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 令和4年1月分から各指数は基準更新により令和2年平均が100となるよう改訂している。

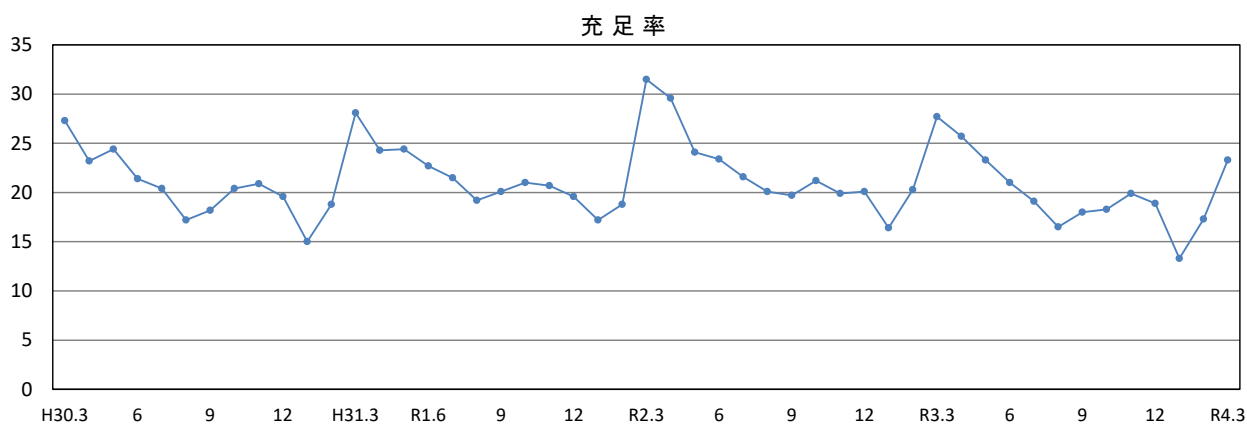
(2-2-2) 有効求人倍率

令和4年3月の有効求人倍率（季節調整値）は1.14倍で、前月を0.01ポイント上回り、12カ月連続で1倍を上回った。就業地別有効求人倍率は1.24倍で、前月を0.01ポイント上回った。



(参考) 充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

令和4年3月の充足率は23.3%で、前年同月を4.4ポイント下回った。



(2-3) 物価

令和4年3月の青森市消費者物価指数(令和2年=100)は、総合指数が102.2となり、前月と比べ0.5%の上昇、前年同月と比べ1.7%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は101.9となり、前月と比べ0.5%の上昇、前年同月と比べ1.2%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は99.4となり、前月と比べ0.2%の上昇、前年同月と比べ1.1%の下落となった。

総合指数が前月と比べ0.5%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、食料などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ1.7%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、食料などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

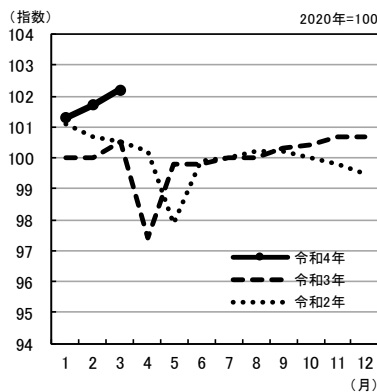


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

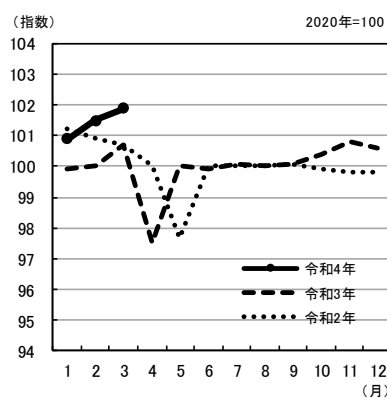
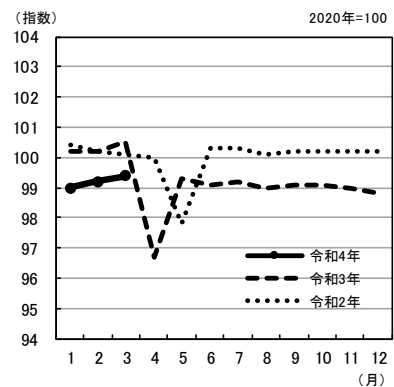


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(2020年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服	保健医療	交通・通信	教育	娯楽	雑費
当月指数	102.2	101.9	99.4	98.2	103.7	108.2	101.1	119.7	100.7	98.6	97.6	92.2	99.2	101.1	101.8
前月比(%)	0.5	0.5	0.2	0.1	0.5	0.7	0.0	2.4	0.2	1.9	▲0.9	0.2	0.1	0.2	0.0
寄与度	—	0.45	0.14	0.04	0.14	0.03	0.00	0.27	0.01	0.06	▲0.04	0.03	0.00	0.02	0.00
前年同月比(%)	1.7	1.2	▲1.1	▲2.4	4.0	11.9	▲0.1	17.0	▲2.2	0.2	▲0.9	▲7.9	0.2	0.9	1.0
寄与度	—	1.18	▲0.98	▲1.54	1.10	0.53	▲0.03	1.72	▲0.09	0.01	▲0.04	▲1.10	0.00	0.07	0.06

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

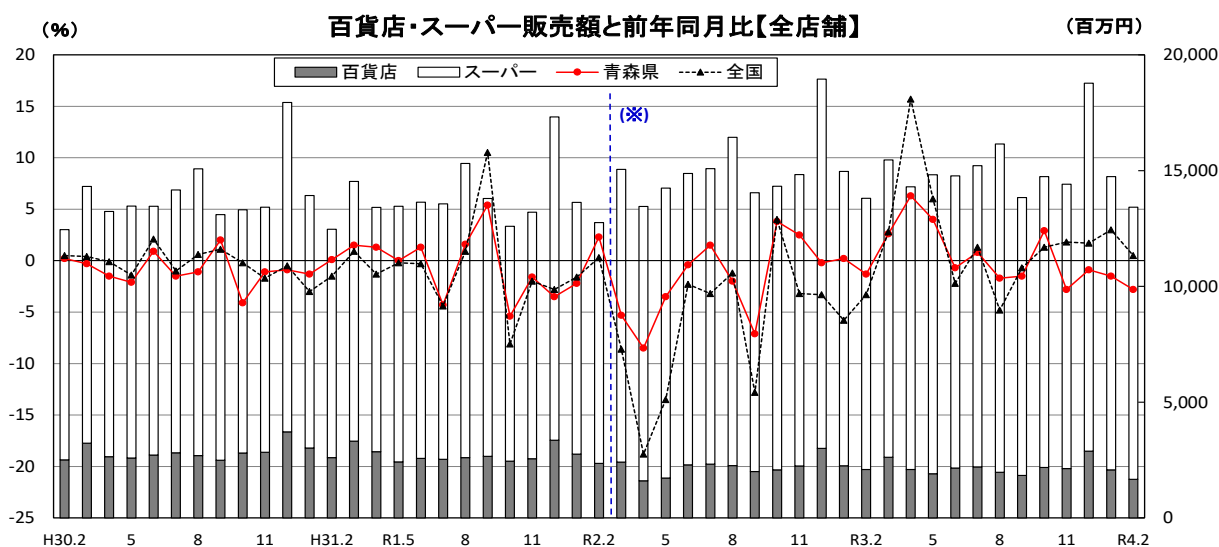
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

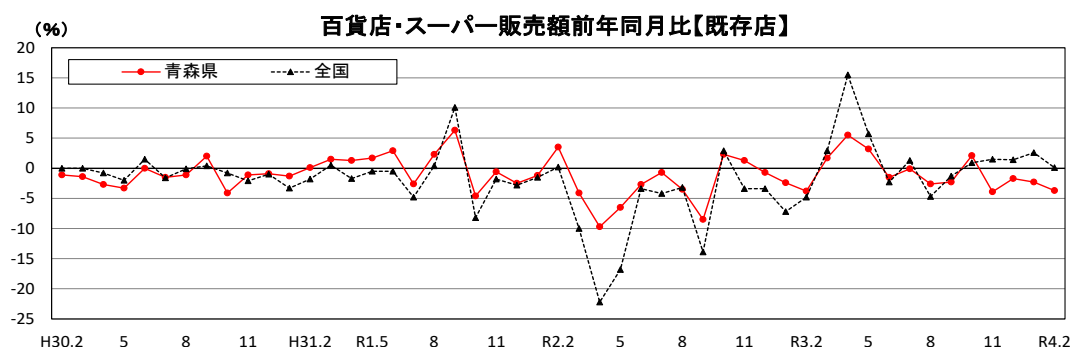
(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額 ※更新なし

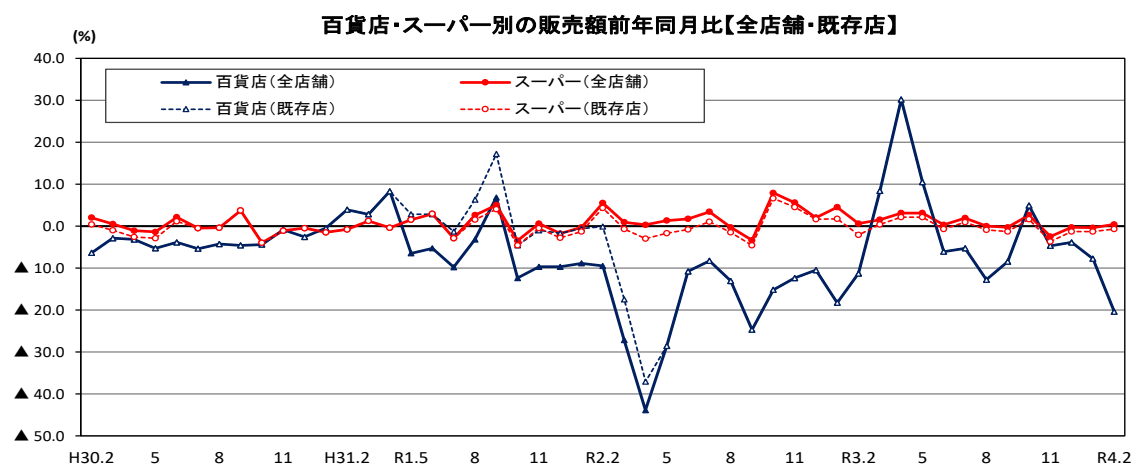
令和4年2月の百貨店・スーパー販売額は、134億円で全店舗ベースが前年同月比2.8%減(平成31年同月比1.8%減)となり、4カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比3.7%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。



※前年同月比は、調査対象事業所の見直しが行われた場合、この見直しによるギャップを調整するリンク係数で処理した数値で計算されている。
R2.3月からはH28年経済センサス・活動調査に基づいた対象事業所の見直しが行われ、スーパー及び百貨店・スーパー合計額の前年同月比について、そのギャップを調整するリンク係数で処理された数値となっている。

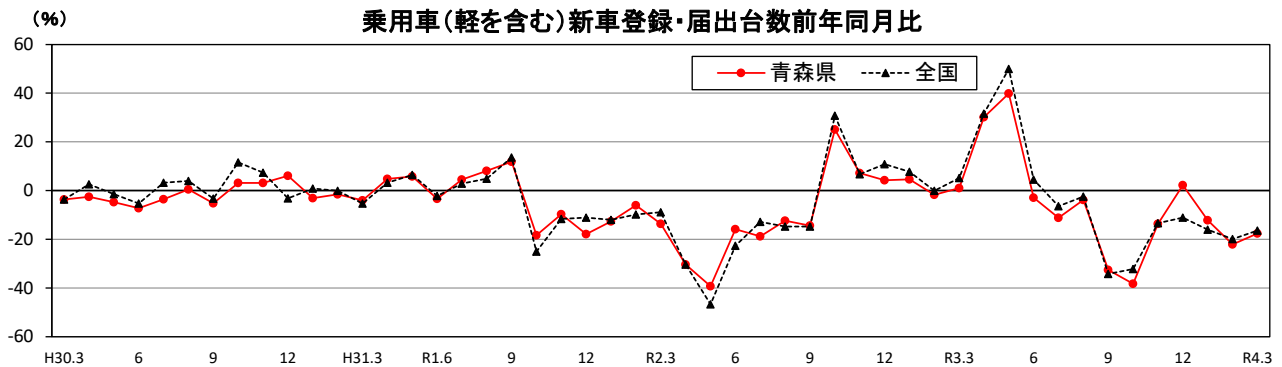


※百貨店は、従業員50人以上の小売事業所のうち、次のスーパーに該当しない事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。スーパーは、売場面積の50%以上についてセルフサービス方式を採用している事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。ただし、商業動態統計調査の家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターの調査対象企業の傘下事業所で、調査対象となっている事業所を除く。
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている事業所をいう。



(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

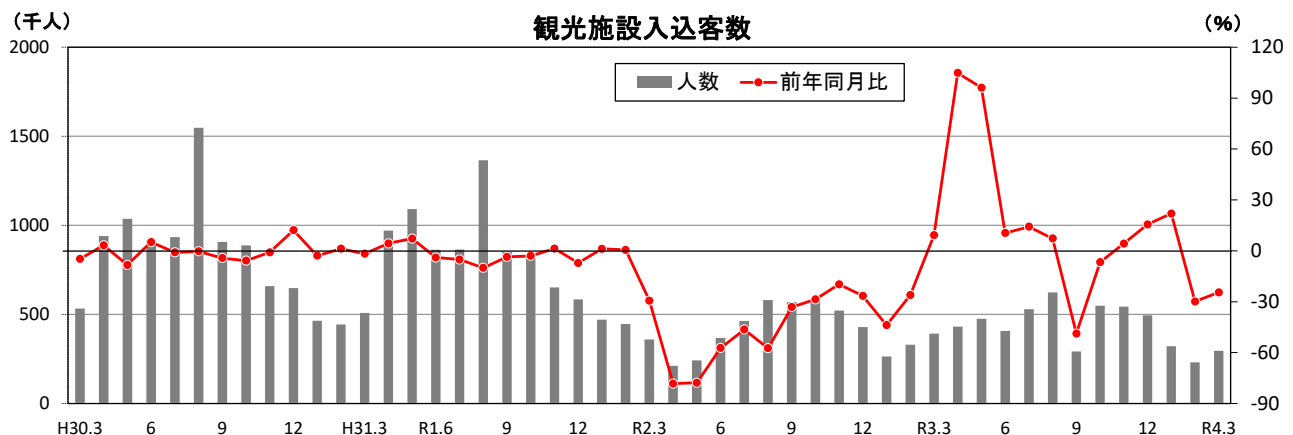
令和4年3月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,205台で、普通乗用車、小型乗用車及び軽乗用車のいずれも減少したことにより、前年同月比17.6%減(平成31年同月比28.1%減)となり、3カ月連続で前年同月を下回った。



資料: 日本自動車販売協会連合会青森県支部「自動車登録状況 新車月報」、同連合会「自動車統計データ」

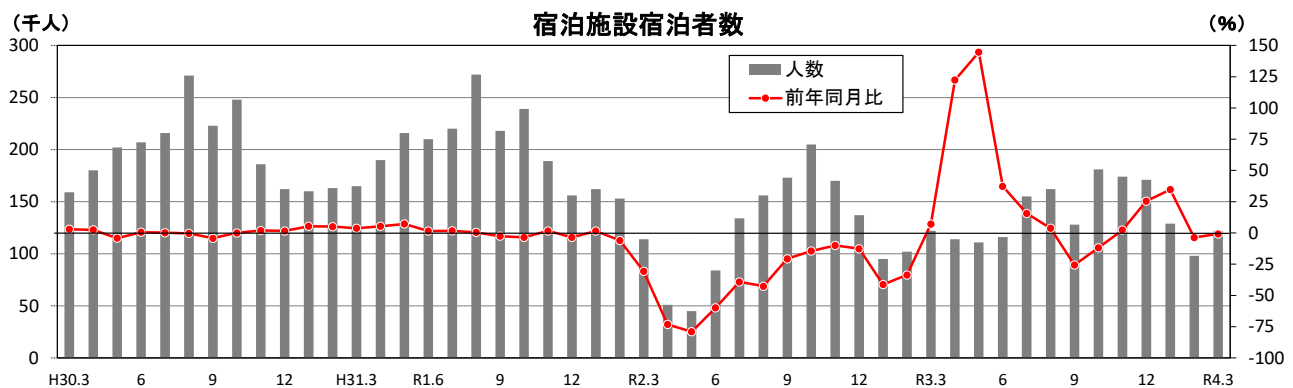
(2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

令和4年3月の主な観光施設の観光入込客数は、29万6千人で前年同月比24.5%減(平成31年同月比41.8%減)となり、2カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、12万2千人で前年同月比0.7%減(平成31年同月比26.3%減)となり、2カ月連続で前年同月を下回り、いずれも平成31年同月を下回っている。



資料: 県観光企画課「月例観光統計」

※観光施設34施設(H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月～H28年12月は34施設、H29年1月～H30年12月は35施設、H31年1月以降34施設対比)



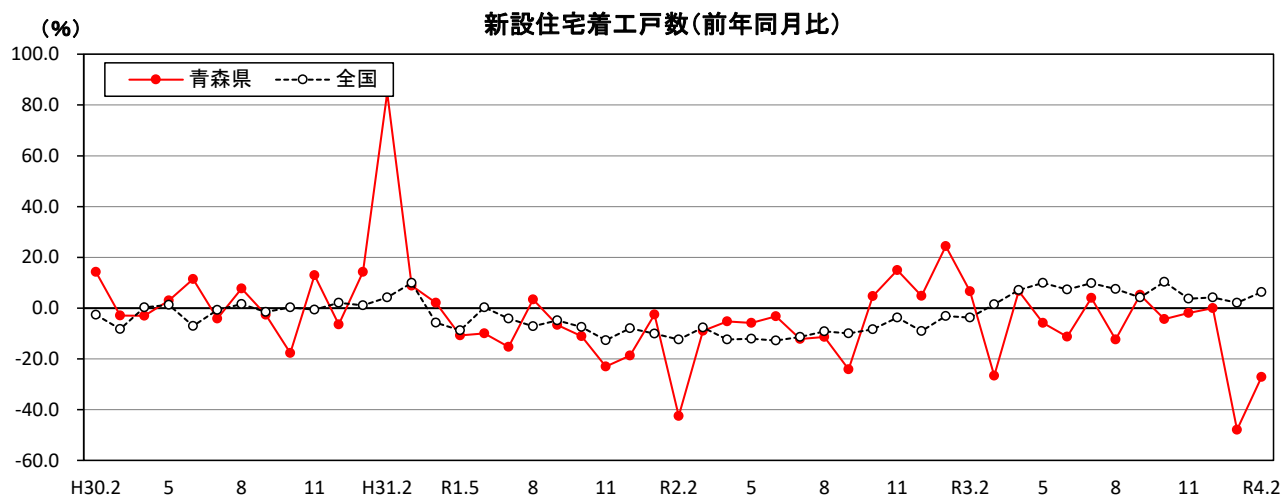
資料: 県観光企画課「月例観光統計」

※宿泊施設 全県75施設(H30年6月まで79施設、H30年7月は78施設、H30年8月～R1年5月は79施設、R1年6月～7月は80施設、R1年9月～R2年3月は78施設、R2年4月～5月は77施設、R2年6月～10月は76施設、R2年11月からは75施設対比)

(2-5) 建設

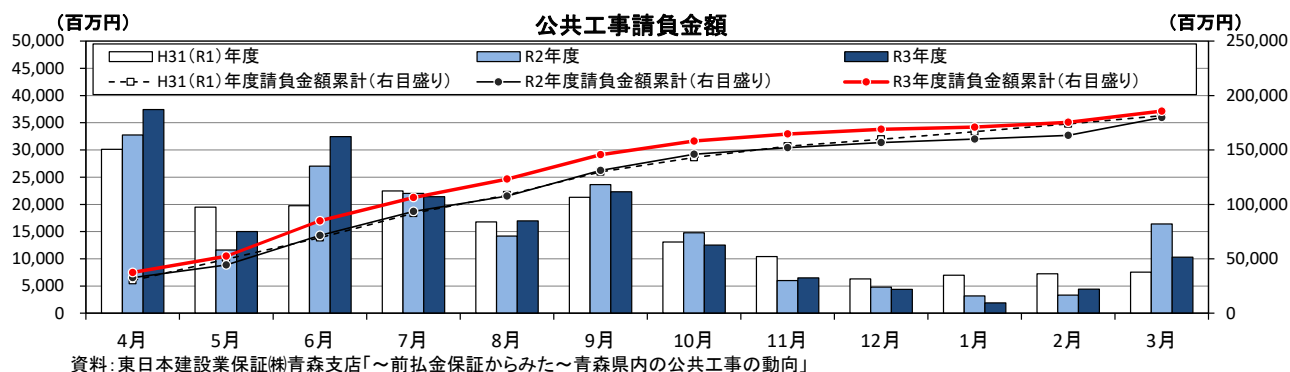
(2-5-1) 住宅建設 ※更新なし

令和4年2月の新設住宅着工戸数は212戸で、前年同月比27.1%減となり、2カ月連続で前年同月を下回った。主に貸家以外が減少したことによる。



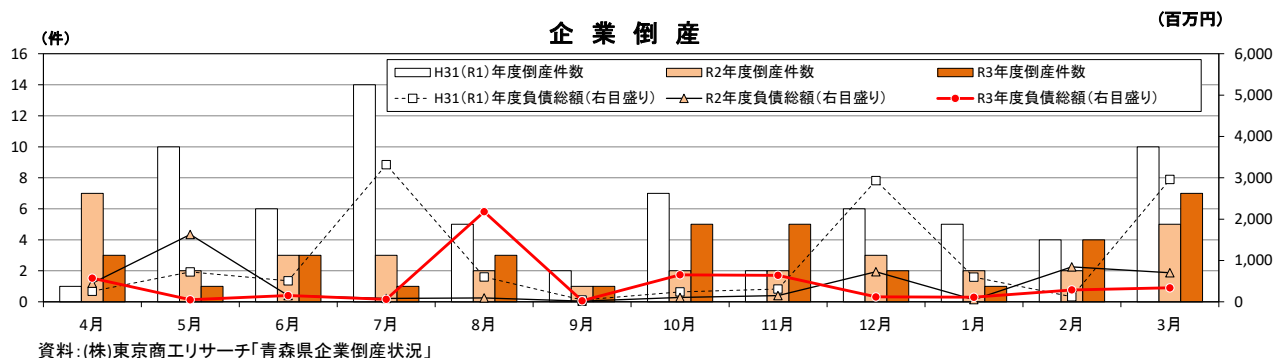
(2-5-2) 公共事業

令和4年3月の公共工事請負金額は102億8,500万円で前年同月比37.4%減となり、国の発注工事が減少したことにより2カ月ぶりに前年同月を下回った。また、令和4年3月までの累計金額は1,856億5,900万円で前年同月比3.3%増となった。



(2-6) 企業倒産

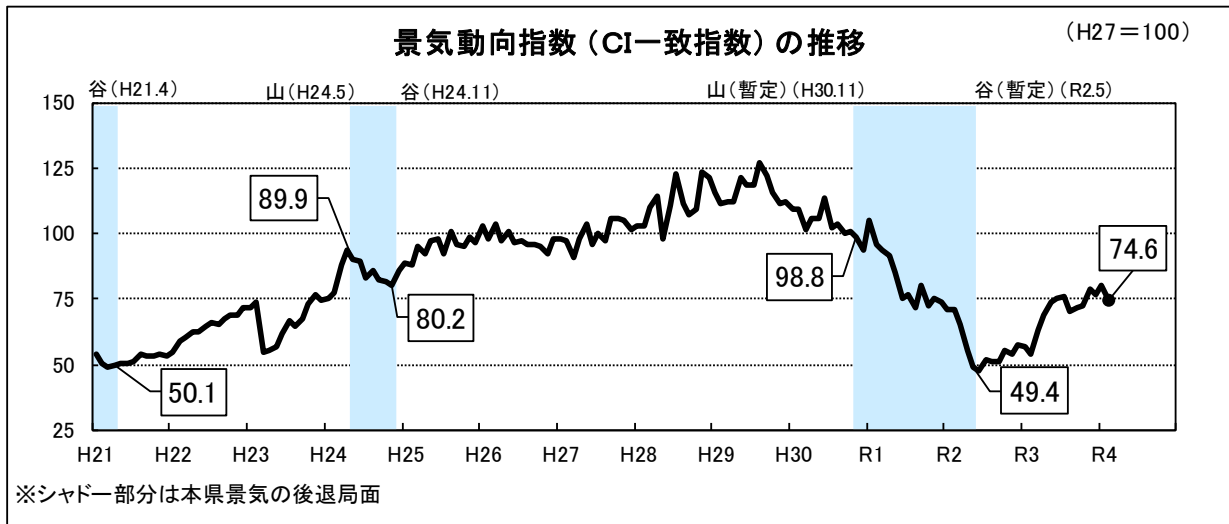
令和4年3月の企業倒産は、件数は7件で前年同月比40.0%増となった。負債総額は3億3,800万円で前年同月比51.8%減となった。また、令和4年3月までの累計倒産件数は36件で前年同期比5.9%増、負債総額は51億8,600万円で前年同期比3.7%増となった。



(3) 青森県景気動向指数

令和4年2月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 112.5、一致指数 74.6、遅行指数 100.8 となった。

- 先行指数は、前月を 8.3ポイント下回り、3カ月連続で下降した。
- 一致指数は、前月を 5.8ポイント下回り、2カ月ぶりに下降した。
- 遅行指数は、前月を 4.3ポイント上回り、2カ月ぶりに上昇した。
- 2月の一致指数は、雇用、生産関連等の指標がマイナスになったことから下降した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
企業倒産件数（逆サイクル）	3.94	3カ月連続	乗用車新車登録届出台数	-5.72	2カ月連続
新設住宅着工床面積	1.51	5カ月ぶり	建築着工床面積	-3.51	2カ月ぶり
			新規求人倍率（全数）	-2.91	2カ月連続
			中小企業景況DI	-0.85	3カ月連続
			日経商品指数（42種）	-0.47	2カ月ぶり
			生産財生産指数	-0.36	3カ月連続
一致系列					
所定外労働時間指数（全産業）	0.67	7カ月ぶり	有効求人倍率（全数）	-3.30	12カ月ぶり
旅行取扱高	0.03	2カ月ぶり	輸入通関実績（八戸港）	-1.64	2カ月ぶり
			鉱工業生産指数	-1.00	2カ月ぶり
			百貨店・スーパー販売額（既存店）	-0.48	2カ月連続
			投資財生産指数	-0.11	2カ月ぶり
遅行系列					
公共工事請負金額	2.27	3カ月ぶり	県内金融機関貸出残高	-1.42	2カ月ぶり
常用雇用指数（全産業）	1.22	2カ月ぶり			
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	1.05	2カ月ぶり			
青森市消費者物価指数（総合）	0.80	6カ月連続			
りんご消費地市場価格	0.26	3カ月ぶり			
有効求職者数（全数）（逆サイクル）	0.07	2カ月ぶり			
（参考）青森県景気動向指数（DI）					
先行指数	12.5%	（4カ月連続で50%を下回った）			
一致指数	16.7%	（2カ月ぶりに50%を下回った）			
遅行指数	42.9%	（2カ月連続で50%を下回った）			

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（令和4年4月期）

現状判断DIは、コロナ禍の影響に加え、原油高や物価の高騰による消費や経済活動の停滞、海外情勢がもたらす経済的影響などへの不安を挙げる声があり、前期比13.5ポイント低下の38.5となった。

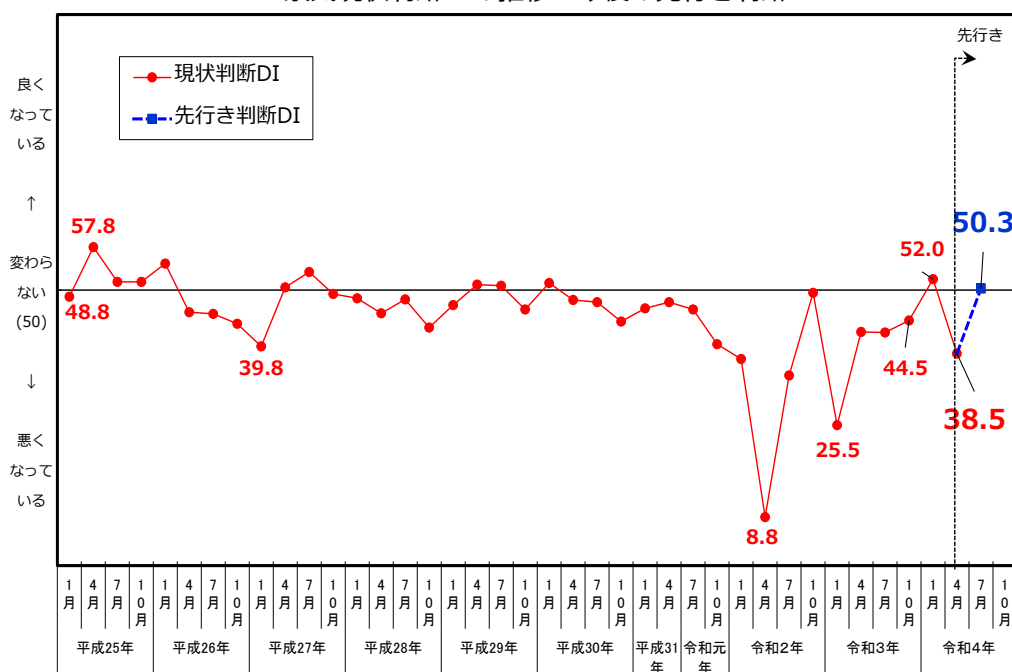
先行き判断DIは、さくらまつりをはじめとしたイベント等の開催を歓迎する声や、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進むことによる経済活動の活発化を期待する声があり、現状判断DIと比較して11.8ポイント上昇の50.3となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を上回った。

（調査期間 令和4年4月1日～4月19日 回答率 98%）

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気現状判断

動 向	前期調査と比べると、「良くなっている」が1.0ポイント上昇、「やや良くなっている」が26.7ポイント低下、「変わらない」が5.8ポイント上昇、「やや悪くなっている」が10.5ポイント上昇、「悪くなっている」が9.4ポイント上昇となった。全体では38.5となり、前期から13.5ポイント低下し、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに下回った。
	判断理由では、前年(前期)と比べ売上が改善しているとの声がある一方で、コロナ禍の影響に加え、原油高や原材料、食品等の価格高騰が進み消費や経済活動が冷え込んでいるとの声が多かった。また、ロシアのウクライナ侵攻による影響が、原油・原材料等の高騰にさらに拍車をかけるとの声や、海外情勢への不安を挙げる声もあった。
	前期調査と比べて、全地区で低下し、景気の横ばいを示す50を下回った。

● 3カ月後の景気の先行き判断

動 向	今期調査の現状判断DIと比べると、「良くなる」が2.1ポイント上昇、「やや良くなる」が18.3ポイント上昇、「変わらない」が5.1ポイント低下、「やや悪くなる」が6.1ポイント低下、「悪くなる」が9.2ポイント低下となった。全体では50.3となり、今期調査の現状判断DIと比べて11.8ポイント上昇し、景気の横ばいを示す50を上回った。
	判断理由では、さくらまつりをはじめとしたイベント等の開催を歓迎する声や、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進むことによる経済活動の活発化を期待する声がある一方で、原油の高騰や物価上昇が消費や経済活動に悪影響をもたらすことへの懸念や、海外情勢の不安定さによる経済的影響がこれまで以上に出てくるとする声が多くみられた。また、感染拡大の終息が見えないといった不安を挙げる声もあった。
	今期調査の現状判断DIと比べて、全地区で上昇し、東青、津軽、下北で景気の横ばいを示す50を上回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

◎	来年度の仕事の依頼もあり休日返上でこなしている状態です。コロナで控えてたのがここにきて一斉に動いたという感じでしょうか。(設計事務所=津軽)
○	単年度の売上に限れば良くなっている。(衣料専門店=県南)
○	コロナ禍で県内の感染者数が高止まりしているものの、徐々に人も動くようになってきた。以前よりは商品の出荷数量なども回復してきた。(飲料品製造=県南)
□	3ヶ月前はコロナ感染者が一時的に減少し、観光需要が戻りつつあった時期、またあおりお出かけキャンペーンの影響で県内、市内のお客様に多くご利用いただきました。しかしながら年末年始、需要喚起対策を除くとコロナ前のような人の動きはあまり感じられません。(都市型ホテル=東青)
□	相変わらず、市街に人がいない。閉店する大型店舗、なくなるイベント。このまま変わらないのではないかと不安である。(レストラン=県南)
□	新型コロナウイルス感染症拡大が落ち着かず、ウィズコロナで経済を回す手法が始まったのが最近のため。(広告・デザイン=東青)
□	新型コロナの規制緩和はされているが、ロシアの侵攻問題により経済への不安。(紙・パルプ製造=県南)
□	新型コロナ感染者数が相変わらず減少しないことで、外食、観光等外出を控える傾向が続く。(人材派遣=津軽)
△	コロナ感染が減少傾向にないマスコミの報道で、市はまん延防止重点措置が解除になっても未だに客数が増えない。さらに、ロシアのウクライナ攻撃で多くの原材料・燃料価格が上がり、景気好転の兆しが見えてこない。(一般飲食店=津軽)
△	コロナ感染症の増加に加え、原油価格・その他の値上げ、直接市民生活に影響があるものばかりです。景気も悪くなります。(娯楽業=県南)
△	いろいろな商品の値上げが相次いでいるが、それに伴い給与が上がっているわけでもなく、みなさん消費に消極的だと思う。(一般小売店=下北)
×	個人も企業もほぼ一様にコロナ禍の長期化で疲弊している事に加え、原材料費の高騰による諸物価の値上げに関した否定的な言葉を社内従業員やお客様からの生の声としてよく耳にするようになった。(タクシー=東青)
×	ロシアによるウクライナ侵攻で原油価格の高騰、小麦等の価格上昇があり、今年2月に入ってから石油関連製品、食料品の値上げが顕著であり、様々な業種に影響がでている。(経営コンサルタント=東青)
×	原油高やウクライナ情勢による輸入原材料の高騰で地域経済が冷え込んでいるほか、食料品の相次ぐ値上げで個人消費が落ちている。(新聞社求人広告=津軽)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

○3カ月後の景気の先行き判断理由

◎	コロナワクチン接種により、重症化が減り、桜まつり、ねぶた祭りの開催等でにぎやかになり、ゴールデンウィークやお盆等の人の流れも通常に戻っていくのでは？…と思うから。(タクシー=下北)
○	弘前さくらまつりや青森ねぶたなど、昨年と変わって実施の方針を打ち出していることは良いメッセージになっていると思う。実際、4月後半の時期はキャンペーン等何もないにもかかわらず一定程度の予約は入っている。(観光型ホテル・旅館=東青)
○	新型コロナウイルスに対する新薬の開発が進み、コロナと共生できる可能性があるため。(百貨店・スーパー=県南)
○	GOTO再開で帰省客増に期待。(家電量販店=県南)
○	季節がよくなり外出機会が増えることによりお買物頻度が増加しお店にも活気が増してくる。(百貨店・スーパー=下北)
○	移動の制限などいまだに對しての反動、コロナ禍に對しての慣れなどで正常化は進みそうな感じはする。観光など人の動きは出てくるだろうし、イベントごととも徐々に増えてきそう。(飲料品製造=県南)
□	コロナ罹患者が高止まりしているが、慣れてしまってる背景もあり。今後もこの生活スタイルは変わらないと考えるため。(百貨店・スーパー=東青)
□	桜まつりやゴールデンウィークがあるけれどもコロナに感染したくないと思ってるので景気回復には繋がらない。(スナック=津軽)
□	新型コロナへの不安が払拭されていない。ロシア侵攻問題の長期化への不安。(紙・パルプ製造=県南)
□	やはり鍵を握るのは新型コロナ感染者数の動向。感染者数の高い状態で横ばい状態が続いている。(人材派遣=津軽)
△	コロナ感染者数の高止まりとロシアの軍事侵攻による物価の上昇が消費行動を抑制すると思われる。(ガソリンスタンド=東青)
△	コロナ禍の影響及び海外情勢の不安定さによる不安、原油高による食品、消耗品の値上げが悪影響している。(乗用車販売=県南)
△	コロナウイルスの影響に加えてロシア・ウクライナ情勢の影響もこれまで以上に出てくると考えます。特に原材料・燃料の高騰などは多数の業種・業界に影響を及ぼすと感じます。(人材派遣=県南)
×	コロナ感染者数がなかなか減少せず、ガソリン価格の上昇、食料・原材料の値上げが、賃金上昇率を上回ることが予想される為、景気に悪い影響があると考え。(経営コンサルタント=県南)

記号の意味：◎良くなる、○やや良くなる、□変わらない、△やや悪くなる、×悪くなる

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」